

令和2年度第1回長野市災害復興計画検討委員会

日 時：令和2年10月9日（金）午後3時から午後4時40分まで

場 所：第一庁舎5階 庁議室

出席者：委 員 長野市災害復興計画検討委員会委員名簿のとおり

（北村委員代理として長野市商工会議所徳武事務局長出席）

（神農委員、小島委員欠席）

事務局 倉島総務部長、酒井企画政策部長、清水財政部長、日台地域・市民生活部長、中澤保健福祉部長、広田こども未来部長、宮尾環境部長、丸山商工観光部長、小林文化スポーツ振興部長、西澤農林部長、小林建設部長、岩片都市整備部長、樋口教育次長、望月上下水道局長、佐伯消防局長、鎌田危機管理防災監、伊熊公有財産活用局長、下平復興局長、復興推進課職員

1 開 会

2 委員委嘱

ながの農業協同組合 代表理事組合長の交代に伴い豊田 実委員から宮澤 清志委員へ変更

3 新任委員紹介

4 委員長あいさつ

5 議 事

【事務局】

「長野市災害復興計画の進捗状況（令和2年度上半期）」について説明

【質問・意見】

<委 員>

スライド31、防災・減災のための情報伝達手段ということで、令和2年度完了予定とのことである。具体的に防災行政無線の距離が拡大するなどと書いてあり、62基増設とのことであるが、場所は各住民自治協議会と調整しているのか。また、場所は既に決定しているのか聞きたい。

<鎌田危機管理防災監>

場所については既に決定している。長沼地区についても、消防団などと「聞こえない」、「聞こえにくい」地区を確認しながら設置位置について検討した経過があります。もし、地区の役員さんに図面等が届いていないようであれば用意させていただく。

<委 員>

増設する場所を各住民自治協議会と市の方で話し合い、合意ができたところを設置するという意味か。

<鎌田危機管理防災監>

地元や業者の意見などを参考にして、「聞こえない」場所が無いように配置した。それでも、「聞こえない」、「聞こえにくい」場所があった場合には、角度を調整したり、スピーカーの大きさを調整したりして進めていきたい。

<委 員>

スピーカーのメーカーや通信機メーカーでは、「聞こえない」、「聞こえにくい」場所を把握しきれないと思われる。その場所に住んでいる住民でしかわからないところがあるので、住民から要望のあった場合は対応して欲しい。

<鎌田危機管理防災監>

業者等と相談しながら、地区の住民の皆様のご意見を聞いていく方向で進めていきたい。

<委 員>

防災に関わる情報伝達のあり方ということで話がありました。被災地区の住民として、千曲川の水位の情報が大変気になっているところである。目視や監視カメラなど、どういう場所で監視して、どういう方法で情報伝達されているのか教えていただきたい。

<斎藤千曲川河川事務所長>

河川水位などを監視している観測所の情報やCCTVカメラによる河川の様子など様々な情報をスマートフォン等で見られるよう配信するとともに、洪水予報等の情報を各自治体へお知らせしています。

<委 員>

カメラは右岸、左岸それぞれ何カ所に設置しているのでしょうか。また、目視は誰がどのように（立ち会って）やっているのでしょうか。

<齋藤千曲川河川事務所長>

カメラの箇所数は、今手元に資料が無いためお答えできません。河川の状況の把握については、河川巡視をしており、随時、堤防上などを車等で回りながら監視を続けております。なお、水位の状況は、目視というよりは、観測所のデータにより把握しております。

<委 員>

住民からすると、国・県・市の情報の連携が不明確ではないかというような声がある。その辺の内容について、組織的、システムのどのような形で整理されているのか聞きたい。

<齋藤千曲川河川事務所長>

国と県の防災情報が見られるプラットフォームの作成を進めており、河川の水位などそれぞれの機関で一緒に見られるように取り組んでおります。

<委員長>

河川の直線部分は水位計1個あれば状況は同じであるが、湾曲部は、水面が水平になっていないので、少しずつ越水し始めてきたとか、そういう状況があると思う。河川巡視でそのような詳細な状況が、現場から事務所の方へ入るような体制になっているのか。

<齋藤千曲川河川事務所長>

簡易水位計というものを、河川沿いに数多く配置して水位の状況等を解析しております。洪水時には川の中で様々な現象が起こっており、河川巡視や簡易水位計などでなるべく把握していきたいと考えています。

<委 員>

スライド7のところ、出水後における千曲川のコンクリート復旧を今年度中に完了ということで、今後についても、確実に実施していただきたいと思います。特に、軻良根古神社のところは、湾曲部であり、あの場所が決壊していれば、川中島平全体が水についてしまうような大変な状況になっていました。堤防のかさ上げが難しいとしても、河川掘削については、今後も継続して実施していただきたい。特に松代の岩野周辺は、下流部は掘削をしていただいて完了しているように見えますが、その上流の篠ノ井橋辺りは中洲等沢山あり、堆積土砂もたくさんありますので土砂撤去をぜひともお願いしたい。

また、スライド9の岡田川は県の河川だが、上流の本流の中に、柳の木が生えており水の流れが悪くなっている。普段あまり水の流れがないため、ヨシが繁茂しているため、

きちんと刈り取っていただくようお願いしたい。

<下里建設事務所長>

昨年の災害を受け、県として今年度から5年間、起債事業で大幅に予算を増やし、計画的に実施しております。また、岡田川の柳の件につきましては、後日、確認させていただきます。

<委 員>

松代地区の中は、扇状地で、神田川と蛭川が流れており、一番下に千曲川が流れております。せっかく神田川と蛭川の浚渫していただいても、千曲川の水位が下がらないと、水が流れていかないため、内水氾濫が起これ、この場所は、水に浸かる場所だということになってしまいます。結果、その周辺の土地が売れなくなってしまうため、千曲川を河道掘削して、努力しているという姿勢を見せていただきたいと思います。

<委 員>

スライド 30 の地域防災力向上の関係で、各家庭でいつどこに避難するのか事前に確認するということが避難行動確認シートの作成は、大変良いことだと思うが、昨年の水害の際においても、避難所への道が車で数珠つなぎになっていて、避難できないという状況がありました。個々の避難計画の中で避難所を指定したときに、実際にそこに避難ができるのか、弱者対策どうなるのか不安な部分があります。今年の7月8日の水害で浅川があと1mで越水する状態になりました。これからは、水害は無くても、避難指示はあるものと思っておりますが、どのように避難、対応していったら良いか分かりません。個人ごとに垂直避難だとか、親戚宅に避難とか色々と選択肢がありますが、色々なことがありすぎて良く分からないというのが本音です。一時避難なのか、指定避難所なのか、その辺も含め住民は迷っており、こういう確認シートは作ったとしても、どのように活かされるのか、また予定したところが避難できるのか、非常に色々な問題があると思います。各地区で状況が違うというようなことあるため、ケースバイケースではあるが、総論ではなく、市の方でも具体的にどこへ避難すればいいのか、またどういうふうに対応できるのか、具体的なアドバイスをお願いしたい。また、市の方で対応する部分と、自治会の方で対応するものと、協働で実施しなければならない部分もあり、それぞれの連携がうまくいくようご指導いただきたい。

<鎌田危機管理防災監>

豊野地区も他地区と同様に、危機管理防災課で各地域の自主防災会会長（区長）を集めて、出前講座を実施しております。その中でマイタイムラインの関係については、今年の広報ながの8月号にも掲載しましたが、「わが家の避難行動確認シート」という形

で、各ご家庭において、自分たちはどのタイミングでどこへ逃げればいいのかということを考えていただきたいとお話ししております。コロナ渦でありますので、車で逃げることができる方は、早めに親戚の家や知人のお宅へ避難するとか考えていただきたいということでお願いしてきました。また、今回の台風 14 号においても、沢山の避難所を開けるための用意はしておりましたが、現在のところ長野市にはあまり影響が出ないと判断しております。それぞれの地域で区長、民生委員、そして消防団も含めて、避難体制を事前に検討し、早めに避難できるような計画（確認シート）を、それぞれのご家庭で考えていただきたいとお願いしているところです。この件に関しては、市のホームページにも載せてありますので、参考にしながら、それぞれのご家庭でお話し合いをしていただくことが大切であると考えています。

< 委 員 >

実際に避難所と書いてあるところに、皆さんが集まって来た時に対応できるのでしょうか。現実問題として、災害時にどのように対応するのかっていうところが難しい問題だと思います。ぜひ、行政の方で一緒になって考える機会を作っていただきたいと思います。

< 委 員 >

避難所の関係であるが、私も心配しています。9月12日の信濃毎日新聞の記事で、長野市の試算では、収容人員の全体の25%しか避難できない、また、密を回避した場合には、12%ということであり避難所そのものが足りないということは、把握されていると思います。避難所の全体の数もそうですが、地域公民館等を避難所にするというようなことを考えてみてはどうでしょうか。また、避難所の対応能力などを交渉するとか、いざ避難になった時に、その避難所の混み具合を、リアルタイムで住民に伝えるようなことを考えてみてはどうでしょうか。宮崎県の日南市でそのようなことをやったというニュースを見ました。避難所の運営について、また、避難所全体の能力について工夫していく必要があるのではないかと思います。

< 鎌田危機管理防災監 >

貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。宮崎県のように、リアルタイムで分かるようなシステムは、長野市には存在しませんが、今後、研究・検討していく必要性は感じています。地域公民館の避難所としての対応については、現在、指定避難所というものが長野市で決められており、その時々洪水に対して危険のないところを選んで避難していただいています。地域公民館は近くていいのですが、一旦水が来た場合には、浸水してしまう可能性があります。昨年の8月に全戸配布したハザードマップで、自分達の地域の公民館は何メートル浸水するのか、事前に確認しておいて欲しいと

説明しております。例えば、平屋建てであれば、3 mから5 mの浸水エリアであれば、その地域の公民館は危険であると判断してもらいたいと思います。その場合には、高台に車で避難するとか、高い所にある避難場所、避難所へ移動するとか、親戚のお宅へ行くとか早めの避難をお願いしているところです。地域公民館については、地域の区長さん達から色々な要望がありますが、洪水ハザードマップを見て判断していただきたいとお願いしております。

< 委 員 >

マイタイムラインとかハザードマップの関係は水害の関係ですが、避難というのは水害だけではなく、地震など他のケースも考えられるため、水害だけに特化して考えるのは違うのではないかと思います。地震のときの行動、水害のときの行動、それぞれ地区で検討しておかなければならない問題ではないかと思います。

< 鎌田危機管理防災監 >

その通りだと思います。スライドの30ページに載っている「わが家の避難行動シート」では、地震、洪水、土砂崩れとそれぞれの災害において自分たちの避難のタイミング場所というものを決めておいていただきたいと説明しております。

< 委員長 >

どこに避難してよいか分かりにくい場合、最初から高い所へ避難しようという心理になってしまい、少し離れていても、高い場所へ、最初から北部レクリエーションパークへ大勢の人が集まってきて、早い時間帯にパンクということにもなりかねないのではないのでしょうか。コロナ渦であれば、なおさら人が溢れてしまうが、そういう状況における交通整理とか、今、想定されているのでしょうか。

< 委 員 >

関連ですが、配られているハザードマップは1000年に一度のものですが、今年のあの洪水の時に、本来長沼地区が避難する場所は、北部レクリエーションパークですが、先程言われたように、交通渋滞だとかお年寄りのことを考えると、そこまで逃げている時間は無いと判断し、100年に一度のレベルで避難場所になっていた、古里小学校に避難させてもらった経過があります。長野市としても全てが1000年に一度に対応できる場所に避難ということではなく、レベル分けできないものではないのでしょうか。沢山の方が1箇所の避難所に押し寄せれば避難場所がバンクしてしまいます。

< 鎌田危機管理防災監 >

確かに100年に一度の雨か、1000年に一度の雨が降るのかは、市においても予測で

きませんが、気象庁で発表している伊勢湾台風並みの特別警報が出るようなものについては 1000 年に一度の可能性は高いと考えていただいても良いと思います。昨年の台風については、100 年に 1 度以上の水は来るだろうという感覚で、避難所をどんどん開けていくような対応を取りました。あらかじめ北部レクリエーションパークのような高いところに大勢集まるっていうことは、可能性として高いと考えています。そういう場合に、次の B ランクの避難所を順々に開けていく予定ではありますが、リアルタイムのコントロールというのは、現在のところ検討中でありますのでご理解をお願いします。

<岩崎委員>参考になるようなもの（100 年に 1 度の洪水時に避難場所としていた場所など）を出していただくというのは、避難所が満杯になったときの最後の道だと思います。一昨年ぐらいまでは、指定されていた場所があって、ある程度対応できているはずで、昨年から突然 1000 年に一度のレベルになり、それ以前に指定されていた場所は、ある程度までは大丈夫だというような表現になり、市としても市民に対してそのような事が言えないという事情も理解できますが、どうしても駄目だったらこの場所でもある程度のレベルの対応が可能であるというような目安みたいなものが欲しいと思います。

<鎌田危機管理防災監>大変貴重なご意見いただきました。市としても、今後、県や国と色々な意見交換するような機会がありますので、そういった所での意見なども聞きながら進めていきたいと考えております。

<委 員>

関連して、30 ページのところですが、住民の方が、自ら命を守る行動を取るためには二つ大きな柱があり、一つは住民の方に正しい情報をちゃんと伝えられているのか、もう一つは、今、お話がありましたそれぞれの避難の状況がどうなっているのかということです。取り残されている人はいないかとか、どこの避難所がどの位の人が入っているのかという状況をリアルタイムでつかめているのかという二つの問題があると思っております。河川情報センターの協力により、減災対策協議会の方でまとめた千曲川・犀川の大規模氾濫に関する住民アンケート調査結果に、「昨年の 19 号の時に住民の方がどのような避難をされたのか」という、非常に詳細なアンケート調査があり、住民の方の 10 月 12 日から 13 日にかけての行動の中で、12 日の夜中というか 13 日の早朝に避難する方が多かったが、避難に至るまで情報を何から得たのかを見てみると、屋外スピーカーから情報を得たという方は、24%で、多くの方は携帯電話などから情報を得ているという状況でありました。どこまでが屋外スピーカーの役割だったのかというのが不明な点があるということと、そこでどんな情報を伝えたのかということも非常に重要だと思っております。実際にその避難所に避難したが、あの日の夜中に雨がやんでいる。13 日の朝の 1 時頃には既に雨がやんでいて、その後、住民の方はせっかく避難所に来たが、一旦自宅に戻られる方が非常に多かった。実はその時、河川の水位は、それからまたピークを迎えたりして、非常に危険な状況であったが、一見雨は止んでいるし、そろ

そろ朝が近づきはじめて中で、ちょっと今のうちに自宅の状況を見に行こうっていう行動をとられた方が非常に多かった。河川の情報をインターネットで伝える仕組みなどの整備も進んでおりますが、その時は、そのような河川の情報を知らずに自ら安全と判断をして、非常に危険な状況の中で、住民の方は、自宅に一度戻られています。屋外スピーカーを増やすことも重要ですが、その効果がどのくらいあるのかということと、そこでどんな情報流すのか、ということをもう少し精査する必要があると思われま。少なくとも河川情報とか、地区ごとに住民に対する具体的な指示がうまく出ているのかとか、伝達の方法で、戸別受信機をどうするか、ラジオの活用とか、そういうものを私も一緒に検討させていただければと思いますのでよろしくお願ひします。それからもう一点の柱が避難の状況、避難所が今どういうふうになっているのかとか、取り残されている人がいないか、災害弱者と呼ばれる高齢者の方とかが家にまだ残っていないかとか、そういうものをできるだけリアルタイムに把握する仕組みが必要だと思っております。豊野地区で行われた避難訓練の時に参加させていただき、顔認証を使って誰が避難所に今来たとか、コロナの関係もありますので顔認証すると同時に、体温をその場で赤外線センサーで測ってという仕組みのものを運用させていただいた。別にその仕組みでなくても構わないが、誰がどこの避難所にいて、その避難所がどのくらい混んできたとか、そういう情報機器を使って調べる。それほどお金のかかるものではないため、そういうものも使いながら、自らの命を自ら守る行動を取るための情報伝達と、それから避難所の情報、それから自らの命を守るための行動が、どこまで取れているのかっていうものを「見える化」するとか、情報機器なども使いながら、一緒に検討させていただければと思ひます。

<鎌田危機管理防災監>

色々システムの話とか、お聞きできました。そういうものが本当に実現できれば、長野市にとっても長野県にとっても、非常にありがたいお話だと思ひます。ありがとうございます。

<委員>

先日、発災後1年で地元の皆で話し合いをしました。災害の情報は沢山出ていますが、私たち高齢者は、機械の操作など難しいことは良く分からないため、どうしたらその情報を入手できるかという話題になりました。機械（端末等）が操作できる人はすぐ調べられますが、昨今、近隣の繋がりというのがなくなってしまって、お互い災害に遭ってから、その情報を共有できない部分もあります。「そういう情報を出しています」とか「そこに書いてあります」と言われても、情報を受けられない人達が沢山いるということ、今後、どのように考えていくかということについて話し合いました。災害の現場を見に行くと、ここまで河川が復旧されているとか、自分の目で見て、色々な人たちに

伝えるようにしていると言った方がおりました。女性の私たちは、中々そういうところまで行かないので、そういったことは助かります。今、特に問題と感じているのが、避難するところが近くに無いということで、「茶臼山に行け」、「南長野運動公園に行け」、「共和に行け」となっても車がないと避難ができません。「早く非難しろ」と言われるが、運転できる子供たちが帰ってこないと言えないという事情があります。私は、この地域公民館の活動を通して、1軒1軒、一人一人が、自分の命は自分で守るという、そういう教育とか、話し合いとか、情報を伝達するとか、回覧板は中々見ないので、そういうところを工夫していくことが、これから一番大事であると思いました。被害に遭った人たちは未だに恐怖もあるし、覚えているし、雨が降ると怖いという思いがありますが、被災していない方が1年経つと、他人事になってしまう部分もあると思います。1年経過したところで改めて皆で討論をしましたが、どのように情報を伝えていくか、というところから始める必要があると思います。避難に関しては、伝え方の工夫も大事でありますので、ぜひそれは皆で考えていかなければならないことと思っております。

<委員長>

啓発活動を通じて、正確な情報を伝え、その受け取った情報をどう判断して行動に繋げるかっていうのはとても大事であり、気象の状況や河川の状況などをしっかり理解してもらおうような啓発も必要であると思います。

<委員>

越水とか溢水とか洗堀とか、いろんな言葉が災害などが出てきました。専門用語を知らない人にとっては、外国語を聞いているようなものであり、言葉を知らない人にそうやって緊急の情報を伝えるかと言ったら、市長さんが夜中に「自分の身を守る行動をとるように」と放送を流していました。あれをもっと早くやっていただけたら、みんなが逃げる方向へ動いたと思います。お年寄りに分かる言葉をどうやって短い情報の中で伝えるか、それをぜひ危機管理防災課に検討していただきたいと思います。

<委員>

今のことに関連して、スライドの32の検証報告書ですが、私の方も読ませていただきました。大変詳細な検証がなされていて、一生懸命作成されたのだということが分かりました。スライドにマニュアル等の見直しを進めていると書かれていますが、このマニュアルは庁内の対応に関するマニュアルという理解でよろしいでしょうか。今、地区の自治協の方々が集まっていただいて話をしておりますが、避難所の運営等々にも関わっていくわけですが、早急に避難所を開けなければならない状況になった時に、避難所を開ける仕事は地区の方が行うこととなります。庁内だけのそのマニュアルももちろん必要ですが、いろんなレベルというか、段階において自治協議会等地区との協議した上

でのマニュアルも必要でしょうし、柳原委員がおっしゃったような、そういった弱者のためのマニュアルも必要でしょうし、そういったことを踏まえて何らかのガイドライン的なものをそれぞれのレベルや必要に応じた場面ごとに作る必要があると思います。その上で教育ですよ。マイタイムラインは確かに「自分の命は自分で守る」その通りですが、それ以外の部分、最終的に避難所を空けたりするのは、市の責任であり、市が最初に着手すべき部分でありますから、市がどこまで何をしてくれるのかっていうことをマニュアルの中で地区の方々、弱者の方々と詳細に詰めて、このように実施していきたいと確認するところまで教育が必要ではないかと思います。

<鎌田危機管理防災監>

このマニュアルは、庁内の職員がどういったケースにどういった対応をするかというものをまとめていく、そういったものでございますので、今いただいたようなご意見も参考にさせていながら、地区の皆さんがご必要としているものを一緒に考えていけるようなシステムにしていければと思います。

<斎藤千曲川河川事務所長>

先程、千曲川の水位を下げたいというお話がありましたが、その件について、補足をさせていただきたいと思います。現在、信濃川水系緊急治水対策プロジェクトを実施しており、その中で千曲川の水位を下げ、台風 19 号レベルの洪水に対しても越水させないようにしていくということを目的にしており、必要なところの掘削は実施させていただきますので、よろしくお願い致します。

<委員長>

大きな出水があると、毎回、川へ行っている方もいるので、今度の出水で 10 センチ位、河床の砂が溜まったとか、状況を良く把握していて危機感を持っている方もいらっしゃると思いますので、ある程度溜まってきた状況の中で、あと少し掘削しておいてもらえれば、今回は溢れずに済んだのではないかという思いがあるのではないのでしょうか。流域全体で実施していこうという話だから、直ぐに全てができないという事情も分かりますし、ダムも使ったりしながら、必死に色々な手を使ってやっておられることは分かります。

まだ言いたいことや要望等はあると思いますが、今後も、地区ごとの話し合いが継続的に実施されると思いますので、そういうところで色々なやり方や、他の県での事例だとか、参考にできるものがあれば、ブラッシュアップして、取り入れていければと思います。

6 その他

吉沢長野地域振興局長 ワンナガノネットについて

- 小池復興推進課長 ①いまこそ応援「がんばろうNAGANO」2020について
②長野市災害復興計画検討委員会の次回日程について
(令和3年5月頃)

7 閉会